

# 古津賀遺跡

中村市古津賀堤防拡幅工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査概報



昭和 57 年 3 月

高知県教育委員会

## =序=

本書は、堤防工事に先立つ埋蔵文化財確認調査として建設省四国地方建設局中村工事事務所の委託をうけて実施した、発掘調査の報告であります。

当該遺跡は、河川工事によって遺物が出土したことから、周知の埋蔵文化財包蔵地として以前よりその存在が知られておりましたが、遺跡の位置・範囲等につきましては不明確なまま今日に至っておりました。

今度、後川堤防工事（古津賀地区）が計画され、埋蔵文化財保護の立場から建設省四国地方建設局中村工事事務所と協議した結果、遺跡の位置と範囲を確認するために、中村市教育委員会の協力を得て発掘調査を実施する運びとなりました。

調査の結果、古墳時代後期に属する遺物包含層の所在が明らかとなり、多量の遺物の出土をみました。こうした埋もれた文化遺産が、今後の教育・文化・学術上に新たな資料を提供してくれますとともに、本報告書が、文化財の保護と活用に資すれば幸甚に存じます。

最後に、調査の実施にあたって種々御指導・御助言いただいた関係各位、地元中村市古津賀地区の皆様方に厚くお礼申しあげます。

昭和 57 年 3 月 31 日

高知県教育委員会

教育長 上田照成

## 例　　言

1. 本書は、高知県教育委員会が建設省四国地方建設局中村工事事務所より委託をうけて実施した一級河川渡川水系左支川後川堤防工事（古津賀地区）に伴う埋蔵文化財確認調査の概要報告書である。
2. 調査にあたっては、中村市教育委員会社会教育課・建設省四国地方建設局中村工事事務所の関係各位に多大な御協力をえたのをはじめ、高知県文化財保護審議会委員・中村市文化財保護審議会委員の諸先生方からは種々の御指導・御助言をいただいた。
3. 本書で使用した標高は海拔高度であり、方位はすべて磁北である。
4. 第1図の地形図は建設省国土地理院発行25,000分の1地形図（土佐中村）を複製使用したものである。
5. 本書の執筆は調査員がそれぞれ分担し、目次に文責を明らかにした。編集は山本があたった。
6. 現地作業については、地元古津賀地区の方々に御協力いただき、遺物整理は下記の方々に御援助いただいた。記して謝意を表します。  
(現地作業) 上岡重治・松本茂・名本定・田中正・宮下三四郎・松本亀治・久保田雄三・田中洋一・東丑枝・岡本光子・東喜久美・上岡鈴喜・上岡数子・宮下貞子・長崎桂子・尾崎幸美・戸田悦子・三浦辰也・浜田健  
(整理作業)  
弘嶋留美・秋山江美・岡田浩子
7. 調査において出土した遺物については、その総てにおいて観察・報告することができなかった。従って、本概要報告書においては主たる遺物についてのみ記述するにとどめた。遺物は目下整理中であり、調査における全般的な問題も今後の発掘調査の検証を得て検討してゆきたい。
8. 調査組織は次のとおりである。

團　長	上　田　照　成	(高知県教育委員会　教育長)
副團長	田　中　一　臣	(中村市教育委員会　教育長)
	水　島　和　夫	(高知県教育委員会　文化振興課長)
顧　門	岡　本　健　児	(高知県文化財保護審議会委員)
	広　田　典　夫	(高知県文化財保護審議会委員)
	上　岡　正　五　郎	(中村市文化財保護審議会委員)
	森　太　平	(中村市文化財保護審議会委員)
總　務	宅　間　康　喜	(中村市教育委員会　社会教育課長)
	横　田　　勇	(高知県教育委員会　文化振興課文化財班長)

調査主任 山本 清水 (中村市教育委員会 社会教育課係長)  
調査員 山本 哲也 (高知県教育委員会 文化振興課)  
調査員 木村 剛郎 (中村市文化財保護審議会委員)  
調査員 下村 公彦 (高知県教育委員会 文化振興課)



TR 6 出土遺物(第V層・第VI層上面)

# 目 次

I	調査の契機と経過	(下 村)	1
II	遺跡の位置と歴史的環境	(木 村)	3
III	調査の概要	(山 本)	5
1	調査方法	( タ )	タ
2	層 序	( タ )	タ
3	T R 6 の遺物出土状況について		12
IV	出土遺物	(山 本)	14
V	ま と め	(山 本)	15

## 図面・図版・目次

第1図 古津賀遺跡の位置と周辺遺跡分布図

第2図 トレンチ配置図

第3図 土層序基本図

第4図 T R 1 遺物出土状況

第5図 各トレンチ遺物出土状況

第6図 T R 6 遺物出土状況

第7図 T R 6 小石出土状況

図版I T R 1 出土遺物(須恵器)

図版II T R 6 出土遺物(土師器・須恵器)

図版III T R 1 出土遺物(須恵器)

図版IV T R 1 出土遺物(土師器)

図版V T R 1 出土遺物(土師器)

図版VI T R 1・T R 6 出土遺物(土師器・石製品)

図版VII 調査区遠景

図版VIII T R 1 遺物出土状況

図版IX T R 1・T R 8 調査状況

図版X T R 7 調査状況

図版XI T R 6 遺物出土状況

図版XII T R 3 調査状況

図版XIII T R 5 調査状況

# I 調査の契機と経過

渡川水系後川左岸古津賀地区においては、かねてより多くの土器片が出土することが知られていた。昭和30年の築堤工事の際においては、古墳時代後期の遺物が数多く発見され、なかでも祭祀に関連したと思われる遺物がまとまって出土したことが注目された。

こうしたことから、土器片の出土した範囲を中心に周知の埋蔵文化財包蔵地（古津賀遺跡）として記録されていた。同遺跡に関しては、遺物の包蔵範囲はこれまで調査確認を行っておらず、どの地点まで遺物が包蔵されているのか不明の状況であった。

この度、一級河川渡川水系左支川後川堤防工事（古津賀地区）が、建設省四国地方建設局中村工事事務所によって計画された。

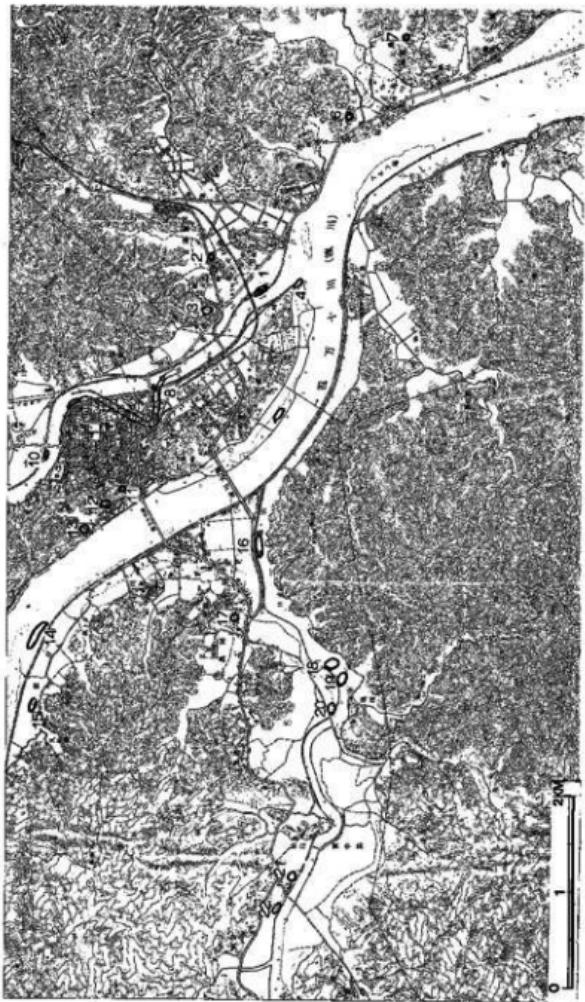
遺跡の存在から、中村市教育委員会の協力を得て、建設省四国地方建設局中村工事事務所と協議を重ねた結果、堤防工事に先立ち、埋蔵文化財包蔵地の確認調査を建設省の委託により実施することになった。

発掘調査は、昭和56年7月27日から7月30日にかけてと（TR10～13）、昭和57年2月6日より2月22日の間実施した（TR1～9）。

調査は、遺物の発見範囲を中心として、工事計画に準じ堤防拡幅による掘削面を対象として主にトレンチ調査を実施することになった。中村市古津賀大場地先において、後川の左岸を上流から下流にかけて進められた。

その結果、上流岸においては（TR1・2・6）須恵器・土師器を中心とする遺物の残存状態も良好であったが、下流岸においては大きく攪乱を受けており、包蔵範囲は上流岸に限定されることが判明した。

遺物の包含が確認された上流岸（TR1・2・6）周辺については、今後工事に先立つ本発掘調査が必要であると考える。



第1図 古津賀遺跡の位置と周辺遺跡分布図

1. 古津賀 2. 古津賀古墳 3. 觀音寺 4. 角崎 5. 不破 6. 竹島土居山古墳 7. 竹島福重古墳 8. 佐岡橋下 9. 佐岡 10. 後川橋下 11. 中村貝塚 12. 百笑久山 13. 吹越山 14. 入田 15. 源地 16. 石丸 17. 西和田 18. 東神木 19. ポケ 20. 船付場

\*中村市街地に大きく蛇行する点線部分は、本来の後川流路を示すもので、今日見られる直線流路は、それを昭和11年に付け換えたものである。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

高知県中村市古津賀遺跡は、中村市の市街地北東部を流れる後川が、県下最大の河川四万十川の河口近くで合流するその接点近くの左岸、四万十川河口から約6キロメートル遡上した地点（第1図）に所在する。

後川は、鳥打場（標高509メートル）、仏ヶ森（標高687メートル）の西斜面に源を發し、蛇行をくり返して本流の四万十川へと合流する、いわゆる四万十川の一支川で、その延長距離は35.4キロメートルを測る中規模河川である。上游域では、河床も砂岩から成る岩盤を露出して流速を強めるが、中流域においては、その流れも穏やかとなって砂岩円礫を堆積する小規模河原の形成を部分的にみることができる。

これも下流域へ向うと様相は一転して、両岸、河床は粘土層となって、水流も極めてゆるく、いわゆるにごり川となって河原の形成はほとんど見られない。

この後川では、中流域あたりから流路に平行する沖積平野と低位性自然堤防の形成をみると、特にそれも河口にかけて発達著しく、弥生、古墳時代の遺跡をこの地域に多く見ることができる。本遺跡も、もちろんその中にあって、自然堤防上の微高地に立地している。

本遺跡は、昭和30年度に建設省中村工事事務所の施工による後川の築堤工事で偶然発見されたもので、古墳時代後期の土師・須恵器の完形品を含む良好な資料を多数出土している。特にそれらの中で注目されるのは、手づくねの粗製小形土器、土製鏡、滑石製有孔円板など一連の祭祀遺物を出土していることである。これらが示す遺物のあり方から本遺跡は、県下的にも希少な祭祀遺跡として重要な遺跡の一つに数えられている。その場所も今では、満潮時に水没し、干潮時には一部の残存個所を水面に現わすていどとなって本来の遺跡地形を大きく変貌している。

今回の範囲確認調査では、その遺跡も、さらに上流へと連続的に分布していることが確かめられた。しかもその地点では築堤工事でのカク乱はほとんど受けでなく、処女地帯であることが明らかとされ、極めて良好な埋没状態を示すものである。結局本遺跡の範囲は現在確実なところ南北250メートル、東西10メートルの後川に平行する小範囲に規定される。しかし、遺物の出土状態からすれば遺跡の広がりは、堤防を東に越えた現水田地帯を含む南北300メートル、東西200メートルの広範囲にまたがるものと見なくてはならないであろう。

遺跡の海拔標高は下流方向の南端で約3.00メートル、上流の北端で3.50メートルを測り、幾分か北端から下流方向へと傾斜している。堤防内側の水田面からも若干下るものである。前面の後川との比高差は約2.00メートルである。

前述したとおり、後川河口周辺には、本遺跡を含めて縄文・弥生・古墳時代遺跡が多く見られる。古墳時代後期の古津賀古墳、弥生中期末葉觀音寺（高地性）遺跡

は、本遺跡の北部700メートルの至近距離にあり、南方350メートルの対岸には古墳時代後期の角崎遺跡が所在する。南部の四万十川河口近くにかけては、古津賀古墳と同時期の竹島土居山、竹島福重古墳2基を見る。

後川流域では、本遺跡から直線距離で2,800メートルの上流に弥生中期末葉石丸式土器に伴出の炭化米出土の後川橋下遺跡があって、その下流に弥生後期末葉～古墳時代前・中・後期の佐岡遺跡が、さらに下流に佐岡橋下弥生後期末葉の遺跡が並列する。

又、中村市街地西側の四万十川に面しては縄文晩期後葉の中村貝塚、弥生中期末葉石丸式土器とそれに伴う石鎌を多出する百笑久山、吹越山（高地性）遺跡が、対岸上流には、弥生前期初頭の具同入田遺跡が所在する。

本遺跡から西部にかけては、国見、船付場、ボケ、東神木、石丸などの弥生中期末葉～古墳時代後期にかけての遺跡が四万十川の支川中筋川河口周辺の河川端に並んで見られる。この内の石丸遺跡に限っては、弥生中期末葉の石丸式の標式遺跡で、中広型銅鉢をも出土している。その他の遺跡からは、滑石製、土製の祭祀遺物、多量の須恵器、土師器を出土し、本遺跡との関連を強める。

以上のように本遺跡の周辺部には、各期にわたる大、小規模の遺跡が分布するが、総体的には、その規模も古墳時代に大きいものが多く、分布地域も中筋川河口周辺に偏在し、立地を河川端の自然堤防上の微高地に持つものである。

#### 註

- (1) 昭和31年7月に、木村剛朗が多く土師器、須恵器などと共に発見、採集したもので、その詳細は（岡本健児「中期古墳時代一生活と宗教一」高知県史考古編、昭和43年）の中にある。  
なお資料は、現在幡多郷土資料館考古遺物室に一括展示されている。
- (2) 遺物は、昭和38年頃、木村剛朗が中心的に採集したもので、祭祀遺物は、全て幡多郷土資料館に展示されている。ただ須恵器の一部については、現在、木村が保管している。この資料についても註(1)の中にその紹介がされている。

### III 調査の概要

#### 1 調査方法

調査区域は、後川左岸に位置する河岸上である。確認調査の対象範囲は、後川古津賀樋門より上流に幅54m 延長278mの範囲と、後川橋梁より下流に幅30m～50m 延長450mの範囲である。調査は、現堤防上に設定された建設省基本杭よりポイントを求め、後川の上流から下流に沿ってトレンチ調査を実施した。各トレンチについてはそれぞれ、TR 1～13の名称を与え、遺物及び遺物包含層・遺構の存否の確認を実施した。このなかで、TR 1～5・TR 11～13については50m間隔でトレンチを設け、TR 6～9については遺物の出土範囲を確認するために任意に設定したものである。トレンチを設定した地番とポイントを求めた建設省基本杭の番号は以下のとおりである。なお、TR 10～13については、堤防工事計画の関係上TR 1～9に先立ち確認調査を実施したものである。

TR 1	中村市古津賀字フダグロ	(No.1)
TR 2	タ	(No.3)
TR 3	タ	(No.5)
TR 4	中村市古津賀字シンチ	(No.7)
TR 5	タ	(No.9)
TR 6～8	中村市古津賀字フダグロ	(TR 6……No.4)
TR 9	中村市古津賀字シンチ	(No.6)
TR 10	中村市古津賀字カヅラキ	(No.12)
TR 11	タ	(No.16)
TR 12	中村市古津賀字西溝タ	(No.18)
TR 13	中村市古津賀字ミツタ	(No.20)

発掘した面積はTR 1～9約180m<sup>2</sup>・TR 10～13約170m<sup>2</sup>である。調査の結果遺物・遺構等が確認されなかったTR 10～13については土層堆積図の作成を、同じく搅乱のため遺物・遺物包含層の存在が不明確なTR 3～5・TR 9については土層堆積図の作成と写真撮影の記録措置を講じた。遺物の出土と遺物包含層の存在が確認されたTR 1～2・6～8においては、完掘せずにトレンチの一部において遺物包含層の範囲と土層堆積状況を確かめた。

#### 2 層序

今回の発掘調査では、遺物包含層が認められたのはTR 1～2・TR 6・7・8の南北約75mにおける範囲であった。TR 3・4・5・9の各調査地点では、数点の遺物が出土したものの遺物包含層は存在せず、堆積層のほとんどが搅乱による二

次堆積層であつて不明確な状況を呈していた。下流の調査地点、TR 10~13においては遺物包含層の形成は認められず、自然堆積による層序が認められた。従って、遺物包含層の確認されたTR 1~2・TR 6~8の各トレンチのなかで主として、TR 1・TR 6の層序を中心に調査区周辺の土層堆積状況を述べたい。

### TR 1 の層序

TR 1 設定個所は標高3.70M前後をはかる平坦地である。土層序は表土層以下9層に区分された。

I層・表土層で暗褐色腐食土層である。II層・暗茶褐色砂礫層(厚さ約50cm)III層・灰茶色粘質土層であり、質的な相違からさらに上下2層に区分される。旧耕作土と思われる。IV層・茶灰色粘質土層(厚さ60cm前後)であり、土層下部は褐色気味である。V層・黄褐色粘質砂層(厚さ10cm前後)VI層・明灰色粘土層で炭化物を多く含む。VII層・暗青灰色粘土層で炭化物を多く含む。VIII層・緑灰色粘砂層、IX層・灰色粘土層である。

区分された層序のなかで、遺物は第IV層下部から出土し始め、第V層をはさんで第VI層~第VII層にかけては良好な遺物包含層となっている。第VIII層~第IX層にかけては無遺物層となって、遺物の包含は認められない。標高では2.20M~1.90Mの範囲で遺物包含層が認められた。

### TR 6 の層序

TR 6 は西側に傾斜する地形に設定されたトレンチであり、トレンチ西端で標高2.70M前後・東端では標高3.20Mをはかる。TR 6 とTR 1 の距離は約75mである。

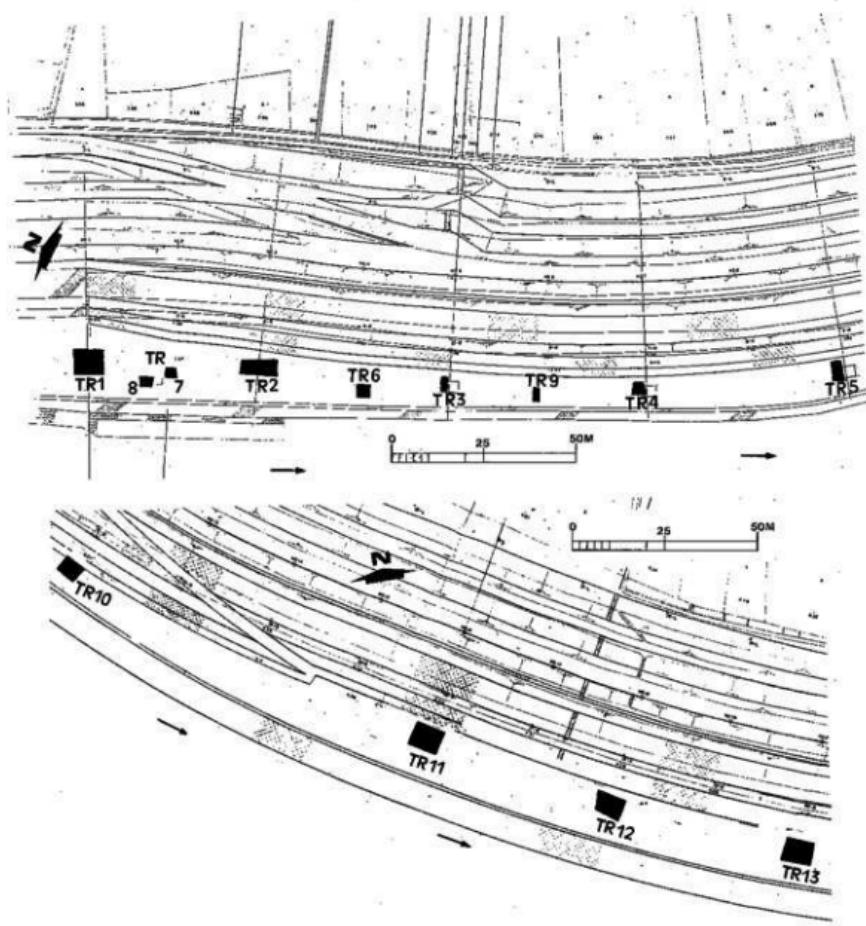
土層序は表土層以下9層に区分された。I層・表土層で暗褐色腐食土層である。II層・褐色粘質層、III層・暗褐色粘砂層、IV層・茶灰色粘質土層(厚さ20cm~60cm)で上層下部は褐色をおびる。V層・黄褐色粘質砂層、VI層・明灰色粘土層で炭化物を含む。VII層・暗青灰色粘土層で炭化物を多く含む。VIII層・緑灰色粘土層である。

このなかで、遺物包含層はV層~VII層(標高2.10M~1.90Mの範囲)にかけてであり、良好な遺物の包含が認められた。VIII層は無遺物層となっている。遺物の出土状態としてTR 6 では、後述するようにV層~VII層上面において祭祀用土器とみなされる小形手捏ね土器を含む土器類が集中して出土し、VII層上部においては小石の散在が認められた。

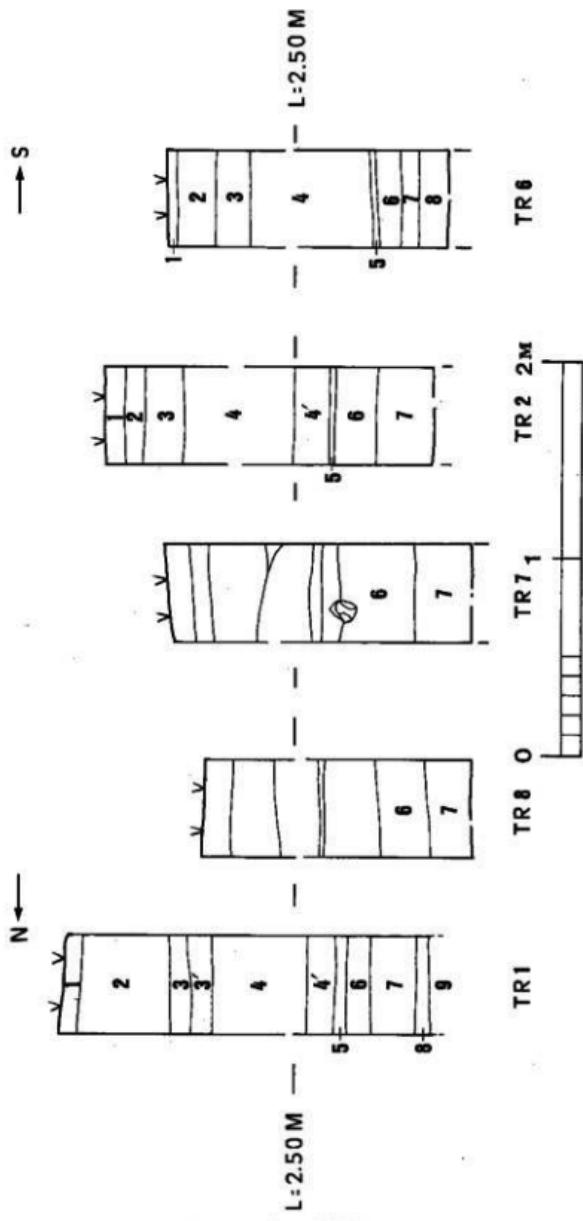
### TR 1~TR 6 間の土層堆積状況

TR 1~TR 6においては、TR 2・TR 7・8を設定して遺物包含層の確認を実施した。TR 1・TR 6については上述した如くの土層序が認められたが、TR 2・TR 7・8の土層堆積状況を補足的に説明してTR 1~TR 6間の層序について述べたい。

TR 2 では7層に区分され、第VII層明灰色粘土層(炭化物を多く含む)・第VIII層暗



第2図 トレンチ配置図



第3図 土層序基本図

青灰色粘土層において遺物の包含が認められた。遺物は標高2.30M～1.90Mにかけて含有され、TR 1・TR 6と同じく第IV層～第VII層の堆積がみられた。TR 7・8は、TR 1～TR'2の間に設定されたトレンチであり、TR 1・2・6と異なる変化に富んだ土層堆積状況を呈していた。ただ、トレンチ下部においては、TR 1・2・6と同じく両トレンチとも第VI層明灰色粘土層・第VII層暗青灰色粘土層の堆積が認められ遺物の包含が確認された。TR 7では標高2.20M～1.80Mにおいて、TR 8では標高2.00M～1.80Mの範囲で遺物が出土した。

TR 1～6においては、第IV層～第VII層にかけて遺物の包含があることが判明した。堆積した土層序の状況は、TR 7・8トレンチの上部を除いてTR 1からTR 6まで第IV層～第VII層の土層が連続して堆積しており、遺物出土レベルも標高2.00Mを前後する範囲であることがわかった。

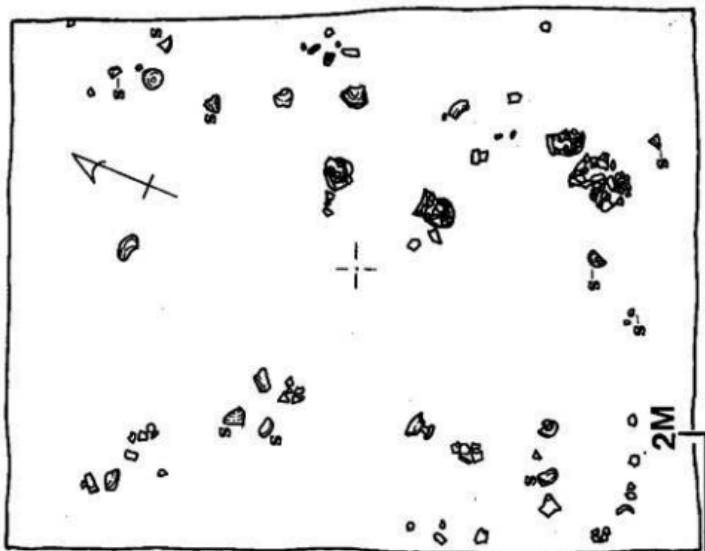
さて、TR 6より以南に設定したトレンチであるTR 3・4・5・9の土層堆積状況であるが、これについて若干の説明を加え周辺層について述べたい。

TR 3・4・5・9では明確な遺物包含層を認めるることはできなかった。TR 1～6における土層序の連続としては、TR 3・5において第IV層が部分的に認められ、TR 4・9においてはわずかにその存在が認められた。TR 3・4・5・9においては、遺物の出土が数点あったが、いづれもこの第IV層に伴うものであった。TR 1～6において多量の遺物の包含のあった第VI層は、TR 3・4・5・9各トレンチ内に堆積していることが確認されたが、遺物の包含はなく無遺物層であった。

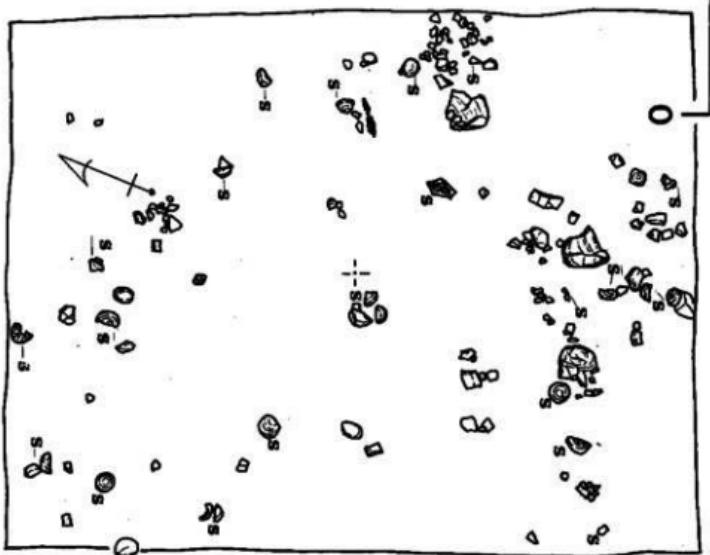
TR 1～9において、遺物を包含する土層は第IV層～第VII層でありTR 1・2・6・7・8の各トレンチにおいては第V層～第VII層が良好な遺物包含層であることが明確となった。このなかで、TR 3・4・5・9のTR 6以南の各トレンチにおいては、部分的に残存する第IV層のみから遺物の出土がみられ、第V層は存在せずTR 1～6間と同質土層序である第VI層には遺物の包含が認められないことが判明した。遺物包含層の形成過程については、面的に少ない発掘範囲である確認調査の性格上、詳細な検討はできないが、多量の遺物の包含が認められたTR 1～6間周辺において遺構等の所在があるものと考えられる。

TR 1～9間は直線距離約200Mであり、本発掘調査においてはTR 1～6間約75mの範囲で遺物包含層の所在が確認された。なお、今時の調査においてはTR 1以北は調査を実施しておらず、遺物包含層の範囲については現堤防設置場所をあわせると、なお拡大するものと考えられる。現堤防を東に越した周辺一帯にも遺物包含層が形成されている可能性は拒めない。

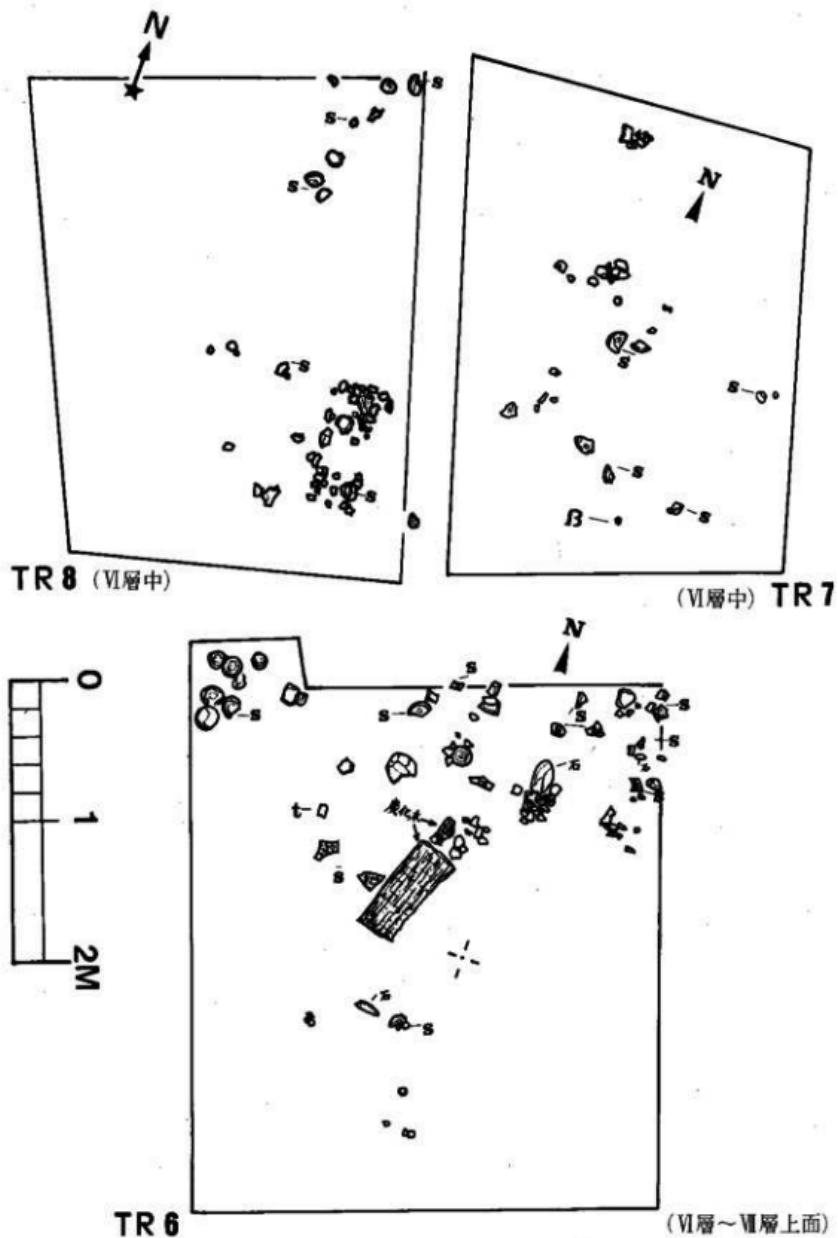
第V層中



第VI層中



第4図 TR 1 遺物出土状況



第5図 各トレンチ遺物出土状況

### 3 TR 6 の遺物出土状況について

TR 6においては、第IV層～第VII層にかけて遺物の出土が認められた。遺物の出土は、第IV層での数点の摩滅した土器片の他は第V層～第VII層にかけて数多くの土器・石器等がみられた。遺物の出土状態のなかで、一際注意をひく遺物出土が認められた。第V層・第VI層上面にかけての祭祀遺物を含む遺物出土状況である。

遺物は、第V層中・第VI層上面において集中して出土した。遺物の種別は以下のとおりである。

須恵器 ..... 高壺・壺身・壺破片

土器 ..... 小形手捏土器・同破片

出土した土器のなかで、従来祭祀遺物とみなされる小形手捏土器の量が多いことは興味深い。出土遺物は、須恵器高壺・壺・小形手捏土器の数点に欠損部分があるものの、多くは完形品であった。

さて、上記の遺物の出土位置を中心に、下層第VI層上端において小石の散布することが明らかとなった。

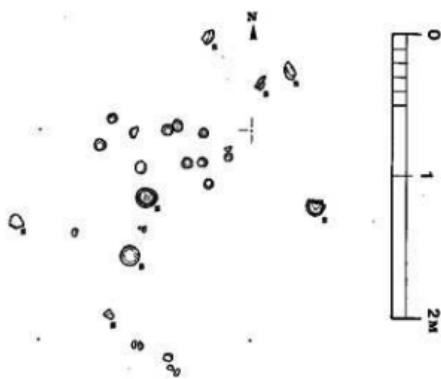
石は3～5cm大の摩滅した河原石とみなされ、出土範囲は第VI層上端において集中していた。

こうした遺物の出土状況は、狭い発掘範囲とはいえ、最近調査例の増加している祭祀遺物と祭祀遺構(玉石・河原石の集中個所)の類例にきわめて類似している。

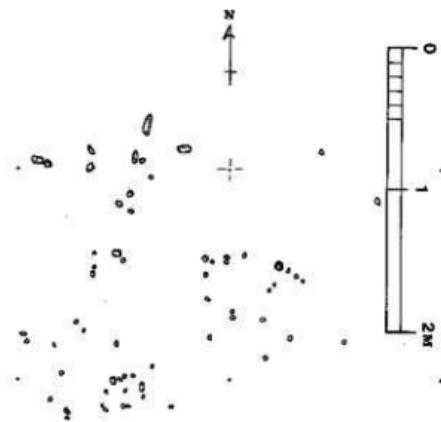
なお、TR 1・TR 2においては、第V層・第VI層上面におけるTR 6の如き遺物出土状況はみられなかった。

小形手捏土器と共に伴した須恵器をみれば、今時の調査のなかで出土した須恵器のなかで最も後出の時期に該当するA・D 6 C末～7 C前半の遺物であると考えられる。出土層序は、下層第VI層(粘土層)と明確に区分される粘質砂層中(第V層)であり、遺物は何らかの祭祀行為のあと第VI層上面に置かれ埋没した可能性がある。TR 6の遺物出土状況については、さらに検討を加えてゆきたい。

最後に、第VI層中・第VII層における出土遺物は、出土須恵器の型式からA・D 6 C中頃～後半の時期に所属し、上層第V層・第VI層上面の遺物に先行するものと考えられることを付記しておきたい。



第6図 TR 6遺物出土状況  
(V層中・VI層上面)



第7図 TR 6小石出土状況  
(VI層上端)

## IV 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、コンテナ箱(内法34×54×10cm)20箱分・完形品約200点に達する多量な古墳時代後期(A・D 5 C末～7 C)の遺物である。(図版I～VI)

遺物のほとんどは、当時の生活に使用された日用雑器、道具類であるが、なかには祭祀用に使用されたと思われる特殊な土器・石製品が含まれていた。またTR6では、祭祀に使用されたと考えられる小形手捏土器とともに須恵器が一括して出土し、共伴関係を探る上で貴重な資料が得られた。(図版I～VI)

出土遺物の概略は以下のとおりである。

須恵器	壺・甕・高壺・壺(蓋・身) 瓢・培
土師器	壺・甕・高壺・壺・碗・こしき
石器類	砥石・叩石・石皿
その他	不明鉄製品・鉄滓・軽石・種子・炭化材
特殊な遺物	小形手捏土器・石製紡錘車

遺物は、遺物包含層に大半含まれていた。遺物包含層はTR1～6間の堆積層のなかで第Ⅳ層～第Ⅶ層であるが、遺物の80%以上の出土が第V層～第Ⅶ層にかけて見出された。層位的に区分された第V層～第Ⅶ層は、TR6とTR1・2・7・8の遺物出土状態、遺物の内容からそれぞれ三時期に区分することができ、出土遺物(特に須恵器)に型式的な変遷が認められた。つまり、第V層～第Ⅶ層各々が古墳時代後期のなかで時期的に細分される遺物を包含していた。各層と遺物の帰属時期を示せば次のようになる。

第Ⅶ層 …… A・D 5 C末～6 C前半 第Ⅵ層 …… A・D 6 C中頃～後半

第V層 …… A・D 6 C末～7 C前半

第V層～第Ⅶ層の遺物包含層は、出土遺物の内容からそれぞれ上記の時期を前後する時点で形成堆積されたものと考えられる。

出土遺物それぞれについては、バラエティーにとんだ器種構成がみとめられ、同器種についても数類に分類することが可能である。また、古墳時代後期における須恵器・土師器の共伴関係を知る上でも貴重な資料を得ることができた。今後の整理作業を通じて、各出土遺物について検討を加えることにしたい。

## V ま と め

今回の発掘調査において、トレンチ設定個所TR1～TR6で古墳時代後期の遺物包含層を確認することができた。

検出された遺物包含層は、出土する遺物からそれぞれ三時期に区分されるものであり、堆積層序から①V層…A・D、6C末～7C前半・②VI層…A・D、6C中頃～後半・③VII層…A・D・5C末～6C前半の各時期に遺物包含層が形成されたものと考えられる。

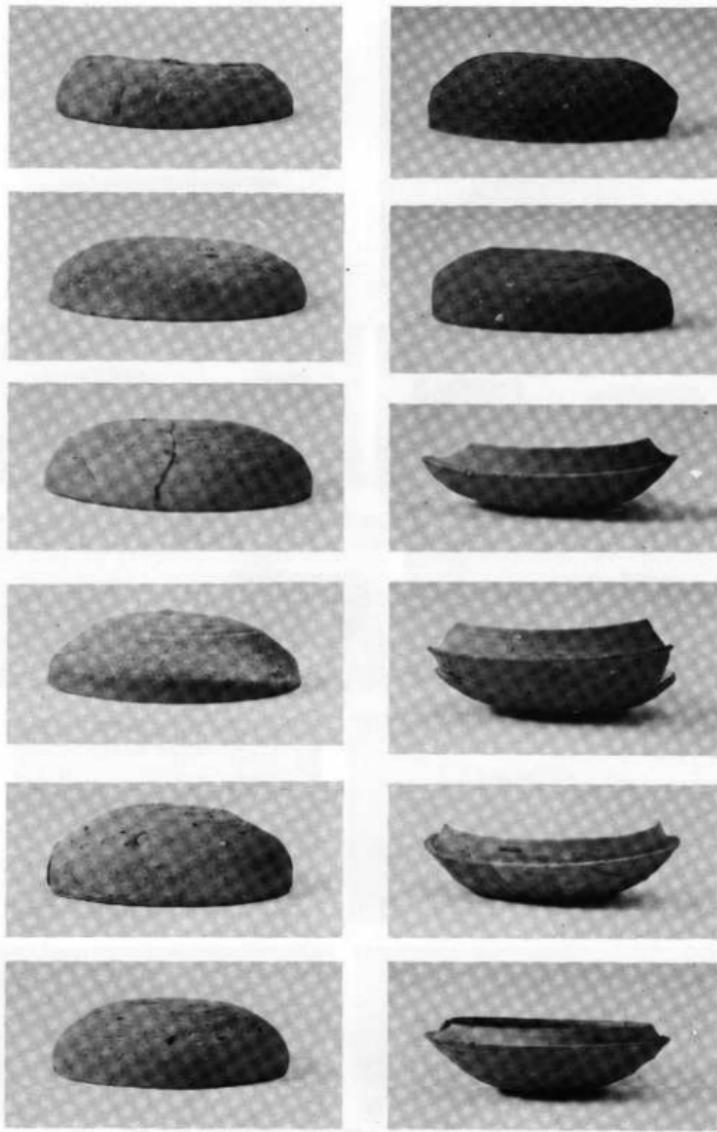
今回の調査においては、遺構の所在を明確にすることはできなかった。ただ、TR6でみられた第V層・第VI層上面の遺物出土状況は注目されよう。これまで、当遺跡においては滑石製の石製模造品・小形手捏土器が多数表面採集されている。発掘調査区においては、TR6を除いてこれら祭祀関係遺物のありかたを直接参考にできる資料は得られなかつたが、TR1・2・6・7・8の各調査区の遺物包含層から小形手捏土器が出土し、TR7からは石製模造品(滑石製紡錘車)を検出することができた。本遺跡周辺では、中筋川沿いの遺跡から滑石製模造品(有孔円板・剣形)・土製勾玉・土製鏡・小形手捏土器が表面採集されることが知られている。祭祀関係遺物の性格を探るためにも、本遺跡は周辺遺跡とあわせて考察される必要があろう。

遺物包含層より出土する遺物は、各器種がみられバラエティーにとんでいた。完形品も多く、第V層～第VII層から得られるものは摩滅の痕跡がほとんどみられなかつた。本調査地点では住居址等の遺構検出はなかつたが、集落周辺の生活空間の一部であるものと考えられる。

遺物包含層である、第VI層・第VII層は湿地堆積でみられるような泥土の沈殿層である。この遺物包含層に良好な各種遺物が包含される状況、いわば遺物包含層の形成過程も今後問題にしなくてはならない。遺物からも、A・D5C末～7C前半に比定されるようにかなり長期間にわたる生活の継続が認められる。いづれにしろ遺構の所在を、これから調査を通じて追求してゆく必要がある。

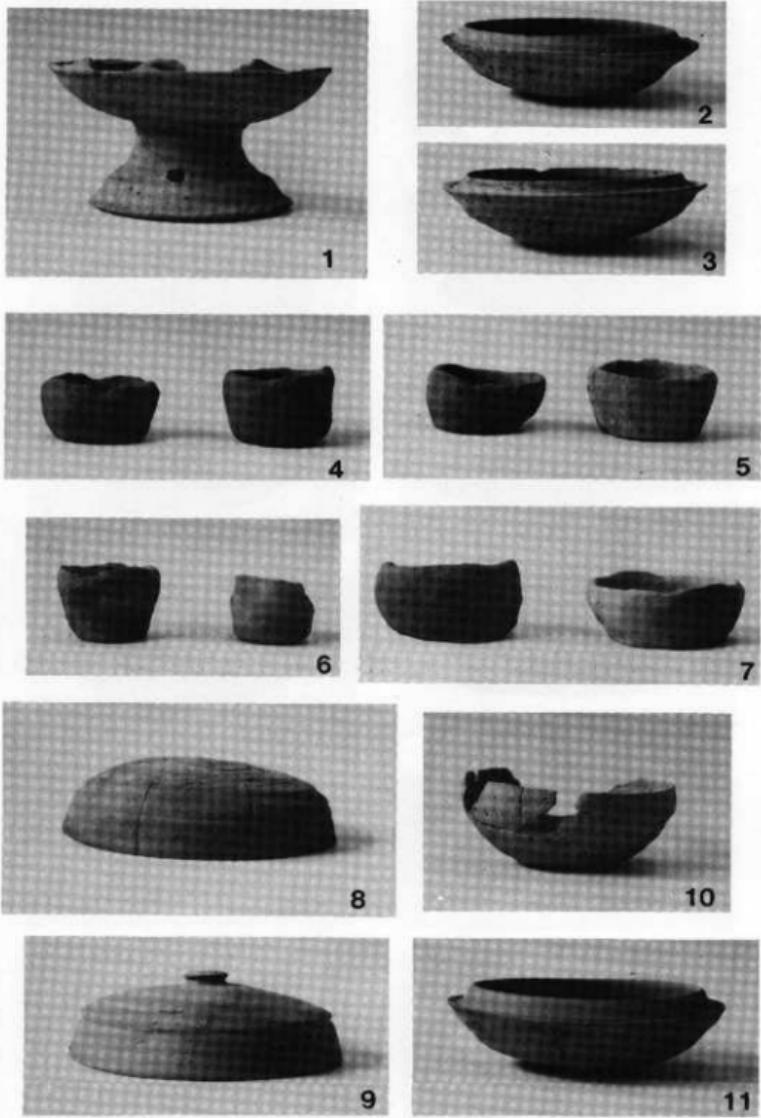
最後に、得られた資料を与えられた時間内で充分把握することができなかつたが、遺物整理・今後の調査をとおして検討を加えて行きたいと考える。

図版 I



TR 1 出土遺物 (須恵器)  
(第VI層中)

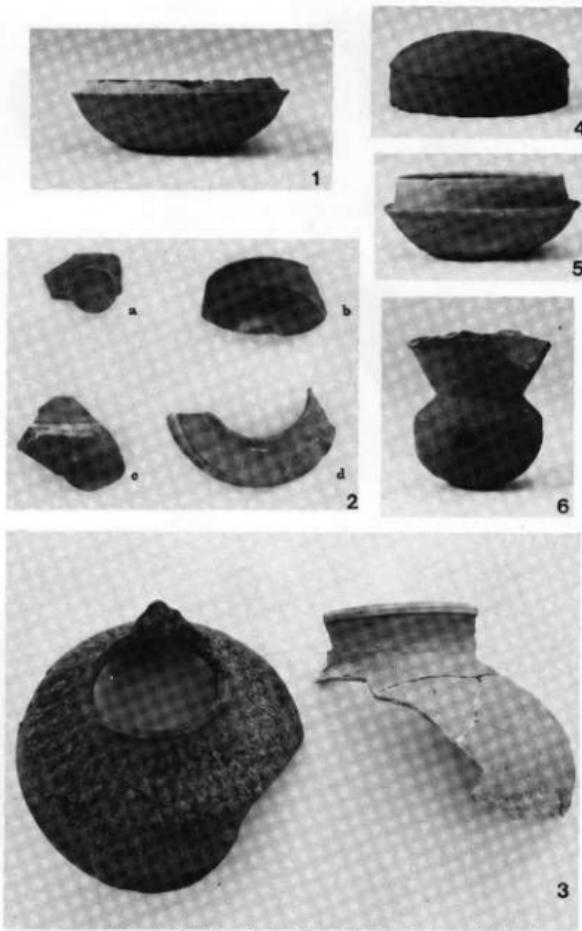
図版 II



TR 6 出土遺物 (1~7・第V層・黃褐色粘質土層・一括)

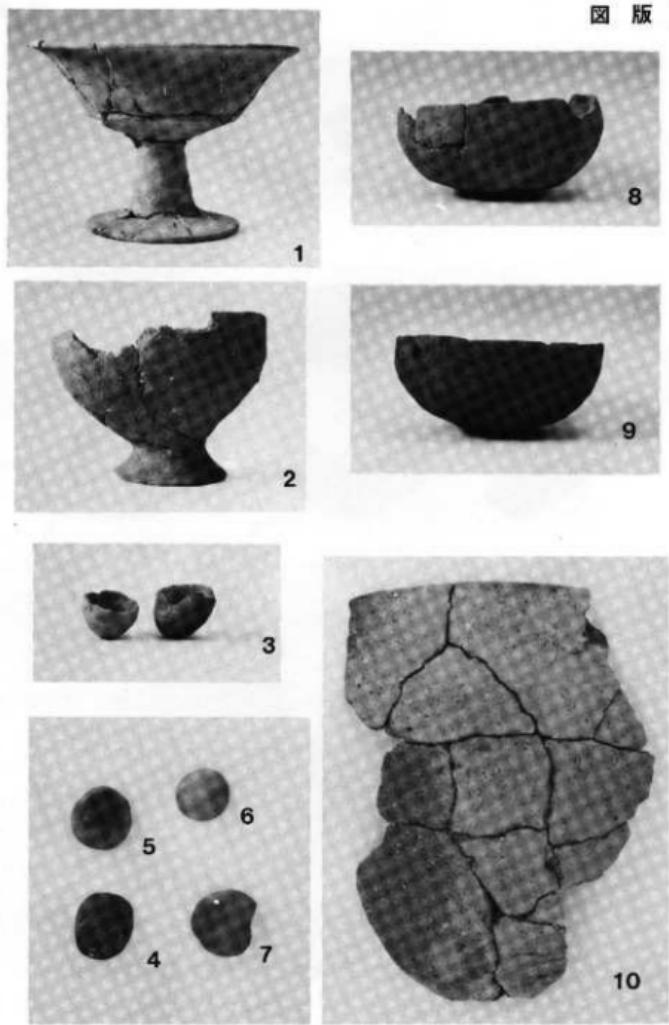
(土師器・須恵器) (8~11・第VI層・明灰色粘質土層中)

図版 III



TR I 出土遺物（須恵器）（第VII層上層出土遺物）

- |         |       |
|---------|-------|
| 1. 壺身   | 4. 壺蓋 |
| 2. a 壺蓋 | 5. 壺身 |
| b 壺身    | 6. 頸  |
| c 壺身    |       |
| d 壺身    |       |
| 3. 頸    |       |



TR 1 出土遺物 (土師器)

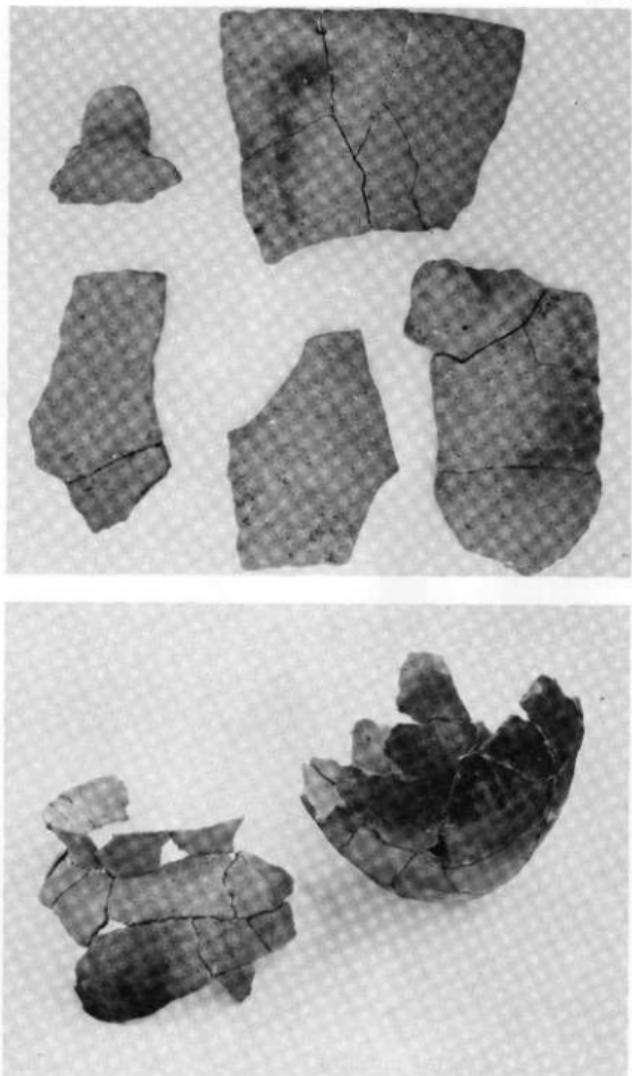
1. 高 坯

2. "

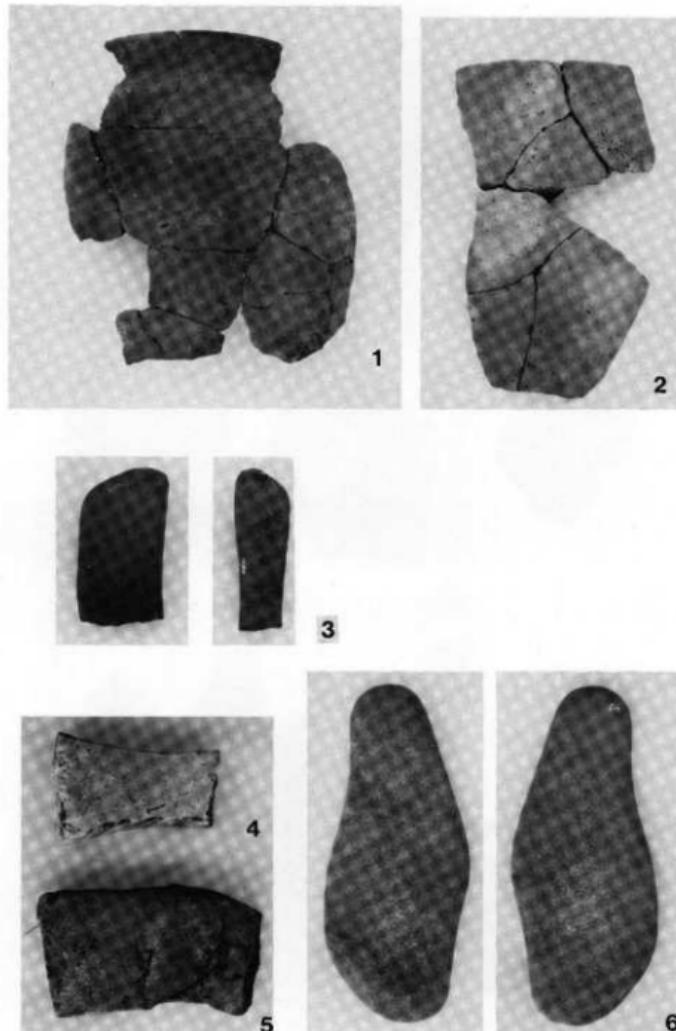
3~7 小形手づくね土器

8~9 梗 (坯)

10. 鍋



TR 1 出土遺物 上 陶瓦  
(土師器) 下 壺



TR 1・TR 6 出土遺物

(土師器・石製品)

1. 瓢

2. 瓢

3~5 砥 石

6. 叩 石

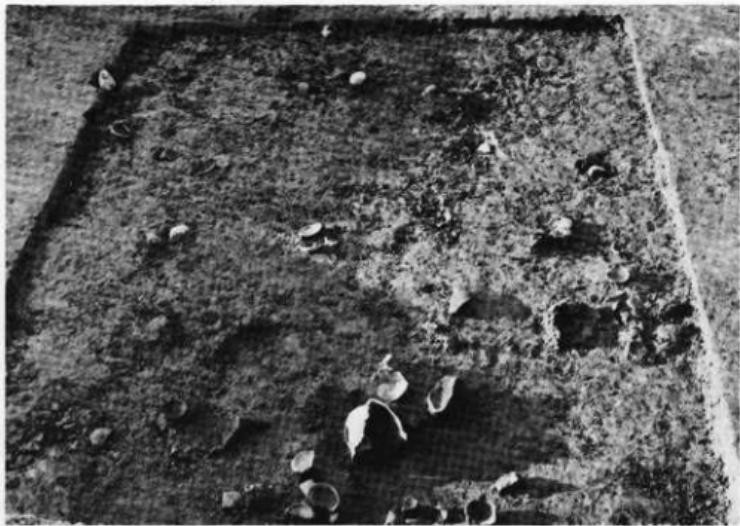
図版 VII



調査区遠景南から



調査区遠景北から

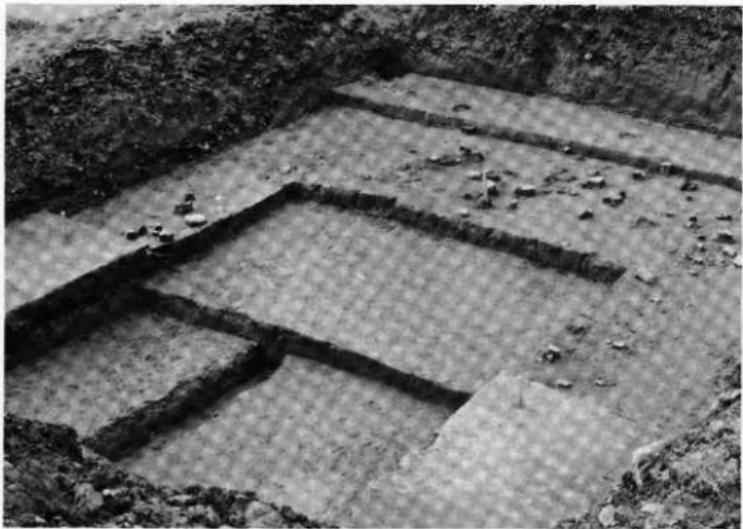


第VI層明灰色粘土層中（南から）



第VII層暗青灰色粘土層中（北西から）

TR 1 遺物出土状況



TR 8 調査状況（東から）



TR 1 調査状況（南から）

図版 X



TR 7 北壁



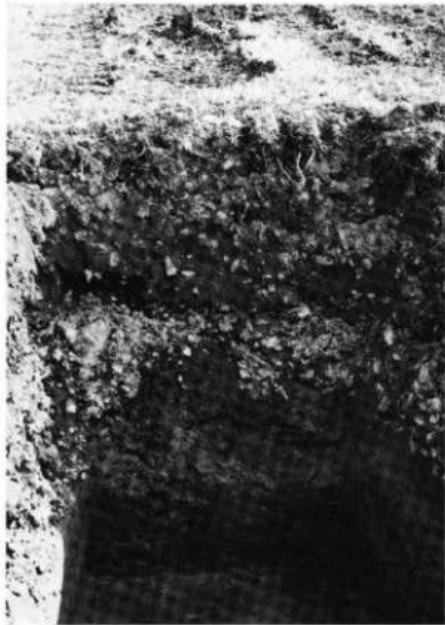
TR 7 遺物出土状況（明灰色粘土層中）北東から



TR 6 第V層・第VI層上面遺物出土状況  
(北から)



同上近景  
TR 6 遺物出土状況



TR 3 東壁



TR 3 北壁  
TR 3 調査状況



TR 5 東壁



TR 5 北壁  
TR 5 調査状況

## 古津賀遺跡

中村市古津賀堤防拡幅工事に  
伴う埋蔵文化財発掘調査概報

昭和57年3月

編集・発行 高知県教育委員会  
印刷布近 森 謙 写 堂